



ながさきロングライフデザイン
NAGASAKI LongLife Design

長崎県産業デザインネットワークでは、県内で長い間、県民の皆様に親しまれてきた優れたデザインの商品を再認識するとともに、広く紹介してきたいと考えております。今回は、小浜食糧株式会社の「クルス」をご紹介します。「クルス」は1964年から製造・販売を開始、50年以上の歴史を有する商品です。下記には、同社のホームページ等から記事をご紹介します。

クルス

1964～(小浜食糧株式会社)

クルスを製造販売している小浜食糧株式会社の前身は、「豊田商店」という小さなお店です。昭和7年、創業者豊田直樹によって長崎の温泉郷・小浜に開かれました。米や醤油、お酒などを販売する、今でいうスーパーの走りでした。当時から今も変わらぬ小浜名物と言えば、小麦粉を温泉の湯で練った「湯せんべい」、豊田商店でも手焼きで販売しており人気を博しておりました。その後、昭和24年には、小浜食糧株式会社を設立。「これからの時代は主食を扱う商売が良い」と、米や小麦などの卸販売、後には製麺や製パンにも携わるようになり、直樹と共に長男信央が家業を手伝うようになりました。

パンを焼き、ホテルや食料品店に卸して回ることが仕事であった信央は、郷土の食を豊かにしようと懸命に働いてきた直樹と共に、いつの頃からか「夢」を抱く様になりました。それは「長崎を代表する銘菓を作りたい」という願いでした。

長崎はキリシタンの文化が色濃く残る街。そんな長崎を象徴するような、和でも洋でもない唯一無二のお菓子を作りたい、長く険しい開発の始まりでした。

信央は全国の観光地に出向き、銘菓という銘菓を研究しました。そんなある日、幼い娘が夢中で食べているクッキーを目にした信央は、ふと「せんべいにホワイトチョコレートを挟んだらどうだろう」と思い立ったのです。原料の調合を何度も変えて、試作を繰り返す中で、風味に個性を出すためにチョコレートに加えたのが「ジンジャー」でした。当時小浜周辺は生姜の名産地であった事もあり、加えてみると「これはうまい！」まさしく、今までにない美味しさでした。このような紆余曲折を経て、昭和39年によく銘菓クルスが誕生しました。

「クルス」とはポルトガル語で「十字架」を意味する言葉です。パッケージには誕生当初から鈴木信太郎画伯が長崎来訪の際に描かれたイラストを使用しています。十字架を刻んだ生地はパリッと軽い食感。ホワイトチョコレートにジンジャーの香りがふわりと広がります。誕生以来、長崎の皆様にご親しんで頂き、50年以上の歴史を持つ銘菓へと成長しました。

これからも長崎銘菓として愛され続ける様に、美味しさの伝統を守り続けます。

